

下恵土地区懇談会（各種団体長懇談会）での主な意見

日 時 平成 30 年 6 月 9 日（土）午後 5 時～6 時 30 分

場 所 下恵土公民館

出席者 39 人

●市長による講演「東美濃国・可児」の誇りの後、質疑応答が行われました。

【質問】文化のアーラ、子育てのマーンができた。次は知識を得られる図書館の大きなものを造っていただきたい。現在の図書館は駐車場も狭い。

【回答】可児駅前当初、ホテルをメインにして図書館と行政機能の一部を入れる計画でした。しかし、社会情勢の変化などからホテルを建設するような民間投資はできなくなりました。日本中の問題でもある少子高齢化、東京一極集中などを乗り越えるためにも、地方に人が住み、家族を持ち、子を育てる仕組みを作ることが一番必要と考え、子育て・健康・にぎわいをコンセプトとした拠点、マーンを造りました。

他市の図書館をみても、人々のコミュニティの場として賑わっています。可児ではアーラがその役割を担っています。アーラは劇場文化を使って地域を創るという日本初の試みで、全国が見習うほどの可児の看板、宝となっています。アーラ、マーンでコミュニティ機能を持っているため、図書館は知の拠点に特化すれば、広い土地はいらないと思いますので、財政状況をみながら考えていきたいと思います。

【質問】子どもが食べ物アレルギーのため弁当を持たせ、学校の冷蔵庫に入れている。給食センターには、アレルギー対応の調理室があるが、稼動していないと聞いている。子どもには温かいものを食べさせたい。可児市として対応していただきたい。

【回答】教育委員会とも相談していますが、アレルギーの種類がたくさんあり、それに対応しきれていないのが現状です。多くのアレルギーに対応した食事を作るのは難しいですが、技術も進歩していますので、解決策を見つけて一つひとつクリアしていきたいと思います。